

アルミニウム合金造技術基準解説及び設計・計算例 正誤表 (第1版第1刷用)

本書に以下の誤りがありましたので、訂正致します。

ページ 該当部	誤	正
P3 3行目	～安全上必要な技術的基準を定める <u>の</u> 件])及び～	～安全上必要な技術的基準を定める件])及び～
P9 8行目	～、構造材として～	～、 <u>アルミニウム合金材</u> が構造材として～
P9 6行目	～(限界耐力計算又は時刻歴等の計算)を実施した場合に～	～(限界耐力計算又は時刻歴等の計算を実施した場合に～
P13 4行目	～アルミニウム合金造の構造部分の <u>延</u> べ床面積が30㎡以下の～	アルミニウム合金造の構造部分の床面積が30㎡以下の～
P13 6行目	～また木造以外であれば <u>延</u> 床面積200㎡かつ～	～また木造以外であれば <u>延</u> べ面積200㎡かつ～
P13 10～11行目	～以下の場合にあって、 <u>延</u> 床面積が200㎡以下かつ平家建てであれば～	～以下の場合にあって、 <u>延</u> べ面積が200㎡以下かつ平家建てであれば～
P13 16行目	～50㎡を超える <u>延</u> 床面積の～	～50㎡を超える <u>延</u> べ面積の～
P14 12～13行目	～限界耐力計算若しくは大臣が定める基準に従った構造計算(時刻歴応答解析等)を行えば～	～限界耐力計算若しくは時刻歴等の構造計算を行えば～
P14 下から8行目	アルミニウム合金については、指定建築材料～	アルミニウム合金材については、指定建築材料～
P23 15～16行目	～V形開先溶接部の硬さ試験結果 ^{2.2)2.3)} を示す <u>よ</u> うに、A5083-0～	～V形開先溶接部の硬さ試験の結果 ^{2.2)2.3)} を示した <u>通</u> り、A5083-0～
P23 下から7行目	～検証した場合には <u>その</u> 値を採用してよい～	～検証した場合には <u>別の</u> 値を採用してよい～
P34 下から3行目	～、性能を確認した実績がなく、～	～、 <u>鉄骨造の柱</u> に対してしか性能を確認した実績がなく～
P39 3行目	～剛性率・偏心率の確認～	～剛性率・偏心率等 <u>の</u> 確認～
P44 下から10行目	～応力状態を適切に評価し保有 <u>水</u> 平耐力接合とする。	～応力状態を適切に評価して保有耐力接合とする。
P48 解説の2行目	～特殊な許容応力度～	～特殊な許容応力度 <u>及び材料強度</u> ～
P49 解説の下から4行目	ただし、 <u>通常の場合ヤング係数には影響を与えない。</u>	ただし、 <u>一般的には部材が弾性域であればヤング係数の低下は見られず、通常の解析上は強度の低下のみ考慮すればよい。</u>

P51 図 3.3.1 中	12mm	12mm
P51 下から 1 行目	～用いない時には、支圧の許容応力度は(2)項を適用せず、(3)項を用いることができるとされている。	～用いない場合を(2)項の式の適用条件から除外している。したがって、これに該当するボルト等については(2)項ではなく(3)項の式を用いて検討することに注意しなければならない。
P55 図 3.3.4	① x軸のラベル「 $c\lambda e$ 」 ② 矢印が引張ってある「(1)式」	① 「 $c\lambda$ 」に修正 ② 「(3.3.1)式」に修正 → 正誤表別紙参照
P56 下から 3 行目	～材長に直行する～	～材長に直交する～
P60 図 3.3.7	① Y軸のラベル「 $\sigma b/F$ 」 ② 矢印が引張ってある破線の凡例「(3.3.4)式において $\nu=0$ とした場合」	① 「 σ_{cr}/F 」に修正 ② 「(3.3.4)式 $\times 1.5$ 」に修正 ③ 実験結果をグラフに入れる → 正誤表別紙参照
P60 4 行目 下から 2 行目	～軟化域のない基準強度 (F) を軟化域の基準強度 (F_v) に置き換えている。	～全断面を軟化域の基準強度 (F_v) に置き換えた式が与えられている。
P71 下から 12 行目	～JIS、JAS に適合することについて～	～JIS、JAS と同等以上の品質を有することについて～
P72 下から 8 行目	～タッピングねじについても、～が規定された。 JIS B1125～	～タッピングねじ及びドリリングタッピングねじについても、指定建築材料に適合するものを用いなければならない。具体的に指定された JIS は JIS B1055 (タッピングねじ-機械的性質) 及び JIS B1059 (タッピングねじのねじ山をもつドリルねじ-機械的性質及び性能) であるが、JIS B1125～
P72 下から 4 行目	また、～化学成分等が規定された。	【文章削除】
P73 表 4.4.1	タイトルの変更 「タッピングねじ及びドリリングタッピングねじの許容応力度及び材料強度」	「ドリリングタッピングねじの許容応力度及び材料強度」
P103 3.2 柱材 C1	(1) 断面算定 断面 H-100×100×10t	(1) 断面算定 断面 □-100×100×10t
P105 16 行目	◆ブラケット t=19 (A6N01-T5)	◆ブラケット t=19 (A6N01-T6)
P106 上図	ブラケット (A6N01-T5)	ブラケット (A6N01-T6)

P107 23行目	ガセットプレート A6N01-T5 t=19	ガセットプレート A6N01-T6 t=19
P107 25行目	$\sigma u = \underline{0.410 \text{ kN/mm}^2}$	$\sigma u = \underline{0.265 \text{ kN/mm}^2}$
P107 26行目	$1178 \times \underline{0.410} = \underline{483.0 \text{ kN}}$	$1178 \times \underline{0.265} = \underline{312.2 \text{ kN}}$
P157 16行目	$P_{1a} = \dots \times \underline{S^2} \times \dots$	$P_{1a} = \dots \times \underline{T^2} \times \dots$
P157 17行目	$= \dots \times \underline{0.175}$	$= \dots \times \underline{0.100}$
P164 下から3行目	～耐力壁の許容面内せん断耐力は～	～耐力壁の許容面内せん断耐力 <u>Qa</u> は～
P164 下から2行目	$f_s = \phi_q Q_v$ ϕ_q は安全率として、長期 1/1.5、～	$Q_a = \phi_q Q_v$ <u>許容面内せん断耐力を Qa とする。</u> ϕ_q は安全率として、長期 1/1.5、～
P168 下から3行目	2.7 許容せん断耐力 $f_s = \phi_q Q_v$ ϕ_q は安全率として長期 1/1.5、～	2.7 許容せん断耐力 <u>試験を行った耐力壁の許容面内せん断耐力は次式で与えられる。</u> $Q_a = \phi_q Q_v$ <u>許容面内せん断耐力を Qa とする。</u> ϕ_q は安全率として長期 1/1.5、～

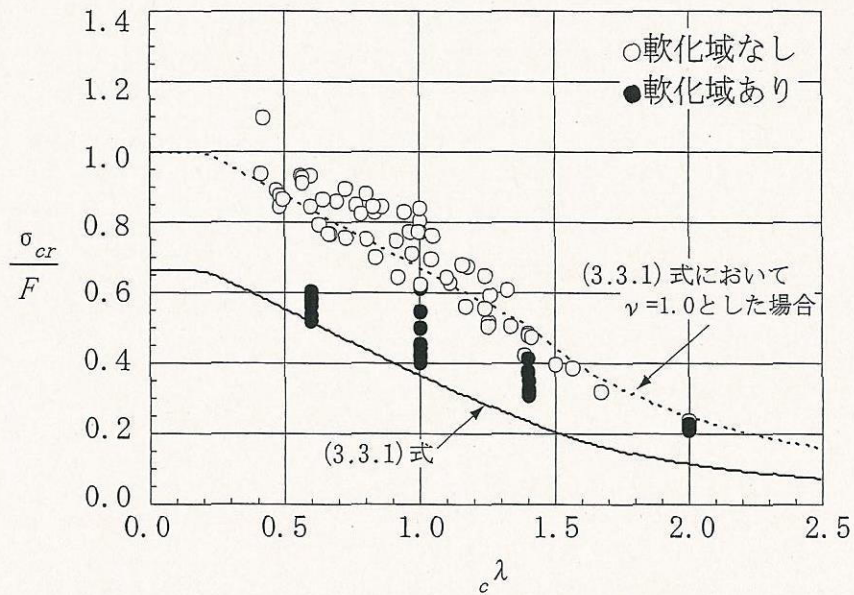


図3.3.4 軟化域の有無による座屈耐力の差

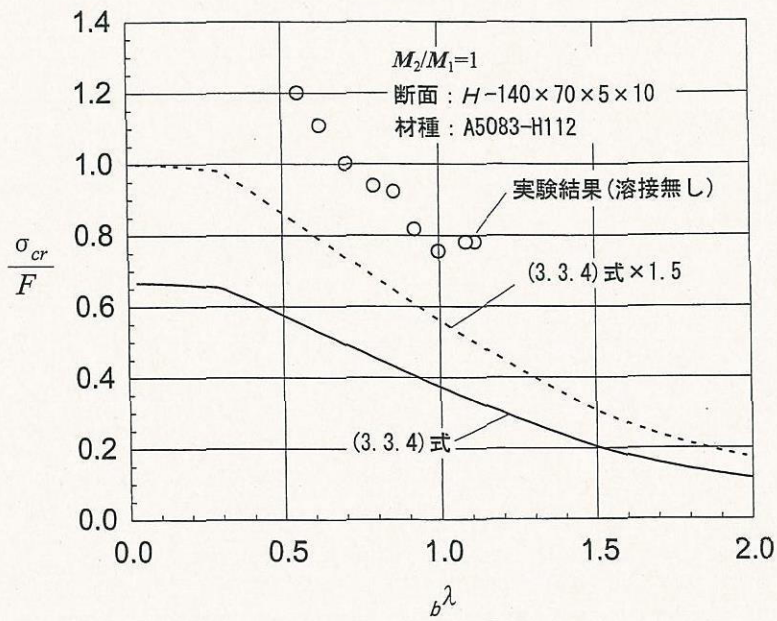


図3.3.7 曲げ材の許容応力度と有効細長比との関係